

SS過疎地対策ハンドブック改訂について

令和4年2月21日

資源エネルギー庁

資源・燃料部 石油流通課

SS過疎地対策ハンドブックの改訂について

- SS過疎地対策ハンドブックは、前回改正から約5年となっており、単なる修正ではなく、利用者（主に自治体、事業者、その他地域住民）に利用しやすいよう改訂を行う。

例) 施策紹介を「地下タンクを入れ替えたい場合」など逆引き形式にする等

現行のハンドブック

1. SS過疎地の現状
2. 先進事例の紹介と「3つのアプローチ」
3. 3つのアプローチを実行に移すための4つのアプローチ
4. 基礎情報、支援ツール
 - (1) コストの試算
 - (2) 自治体・政府による関連施策
 - (3) 「駆けつけ給油」に係る指針概要
 - (4) 地方創生を巡る動き
 - (5) 石油業界関係事業者の取組



改訂方針

- 適宜リバイス
- 次ページ参照
- 次ページ参照
- 引き続き掲載
- 目的別に逆引きにしてリバイス
- 最近の消防庁関係の規制緩和を掲載
- ※掲載するのに適切なものがあるか確認
- ※現状を確認の上、掲載を検討

SS過疎地対策ハンドブックの改訂について

- 2. 先進事例の紹介と「3つのアプローチ」及び3. 「4段階のプロセス」については、今回の研究会の議論を踏まえた上で、抜本的に見直す。
- 2. について、方向性1「地域に不可欠なインフラとして活躍」、方向性2「必要な燃料供給インフラ維持」、方向性3, 4「持続的運営を目指す」の3つに整理。
- 3. について、「4段階のプロセス」の対象は、方向性1, 方向性2に対する記載とする。

2. 先進事例の紹介と「3つのアプローチ」改訂方針

- ・基本方針として最初に第3回研究会資料2のP 1の「解決策の考え方」を示し、方向性を解説する。
- ・研究会でのこれまでのご意見を踏まえて、論点について加筆し、補足説明を行う。
- ・具体的メニューについては、アイデア、ヒントだけでもあれば、というニーズを踏まえ、前広に提示し、参考になるよう補足説明を行う。
- ・先進事例については、原則として現ハンドブックに掲載されている事例の現在を紹介し、また近年の好事例を追加する。

3. 「4段階のプロセス」改訂方針

- ・「課題の認知、検討」については、より具体的に記載する。
 - －石油製品の用途やニーズ、実態、今後の見通し等について整理して現状を認識していただく。
 - －第2回研究会資料P 8「地域、行政の取組のあり方」を加筆し、地域の取組、行政の取組に分けて、プロセスごとに説明する。
- ・「実践」、「評価・改善」については、事例をもとに、具体的に説明。前回改訂より約5年を経過し、改善点・新たな課題の発見等あれば記載。レビューを行ってよりよい方向に進んだ例があれば好事例として取り上げる。

地域、行政の取組のあり方

分類	プロセス	論点
自分ごと化	気づき（認知）	きっかけ作り、問題意識の醸成にはどのようにすべきか。
	参画	リーダーをどうするか。市民有志はどういった形（組織等）で参画しうるか。
	協議会	関係者による議論の場をどのように設定するのか。
	自治体への意思表示	自治体との関係はどのようにあるべきか。
	買い支え・出資	市民が金銭的貢献をするケースとは。
行政のサポート	認知	担当者の配置、S S事業者との関係構築、関係機関（石油組合、経産局等）との関係構築。
	S Sへの支援	設備投資への補助、官公需調達、役場職員による購入促進、燃料購入補助等。
	広報活動	市民への燃料供給体制維持の必要性の啓発（災害時対応含む）。
	S Sの位置付け	生活・産業基盤としてのあり方整理、他の公的業務との連携の検討、人材確保・育成への支援等。
	政策への落とし込み	地域の各種計画においてS Sの位置づけを明記、地域における燃料供給計画の策定。
	直接関与	ランニングコストへの支援、人的支援、指定管理者制度の活用（公設民営）。